

ART KISS
LETTER vol. 62
2013初夏

会場風景

巻頭言

コレクション、安らぎの地

世界の美術館や博物館には様々なコレクションがあるが、その帰属に関して興味を引いたのは、ロンドン自然史博物館の近年の事例である。先住民を代表したオーストラリア政府との長く真摯な交渉の結果、自然史博物館は所蔵していたタスマニア・アボリジニ及びトレス諸島島民の祖先の骨を島々に返還した。その数は約二百点。博物館にとってそれは、どのような人々がいつごろ島々に渡り、どんな変化をしてきたか、民族の起源を明かす貴重な科学的史料であった。しかし英国側を説得したのは、ロンドンの博物館においては島の祖先の霊が浮かばれず、彼らが生きた島こそ安らぎの場所であるという島民の主張であった。

現代美術においては、所蔵履歴や国家的帰属の問題が生じることは当然ながら少ない。熊本市現代美術館で現在開催中のCAMKコレクション展では、作家が熊本にやって来て制作したり、この地からインスピレーションを受けた作品が主体となっている。さらに今回は、熊本にとって重要な安本亀八の《相撲生人形》が展示。この異色の逸品は一八九〇年に制作、浅草で展示されているところをアメリカ人の美術商フレデリック・スターンに買われてデトロイト美術館に寄贈された。十九世紀後半から、おびただしい数の日本美術がアメリカに渡り、それらはボストン、ニューヨーク、ワシントン等の大美術館に収まっている。その中で《相撲生人形》は百年余を経て、亀八の生まれ故郷熊本市に買い戻された。これほどの傑作が日本に里帰りできたのは、稀有のケースと言える。作品にとって帰るべき地に帰ったのだ。それが今放つ光は強烈であり、驚くほど高い現代性を帯びている。

熊本市現代美術館館長 桜井武

MUSEUM INFORMATION

2013 FEB-MAY

STREET ART-PLEX KUMAMOTO

大道芸2013

2013.3.17



STREET ART-
PLEX KUMAMOTO
による大道芸
2013が今年も
開催され、会場の
ひとつとして、紙
芝居のぐれっちゃん
とクラウンのチ
ムチムサービサー
んが美術館フリー

スペースに登場。軽快な太鼓の音とともに
始まった紙芝居には大人のほうが釘付けに
なり、チムチムサービサーさんのユニークな
衣装とコミカルな動きに子どもたちの笑顔
いっぱいひときととなりました(E・Z)

【参加人数:30人】

ミュージック・ウェーブ

展示会や季節にあわせた
コンサートを開催しています

ミュージック・ウェーブ2008 第19回
くまもと全国邦楽コンクールプレイベント

春の箏演奏会 in 現代美術館

2013.3.30

春の箏演奏会をホームギャラリーにて行
いました。

このコンサートは、5月12日(日)に市民
会館崇城大学ホールで開かれる「第19回く
まもと全国邦楽コンクール」の開催を記念
するものです。出演者に、熊本箏演奏者協
会の田中社中と紫星会の2つの社中をお迎
えし、「絵日傘に寄せて」(作曲/野村正峰)、
「桜川」(作曲/光崎検校)、「春の海」(作曲/
宮城道雄)、「松竹梅」(作曲/三橋勾当)、「遥



かなりみちのく路」
(作曲/野村正峰)な
どの曲目が披露され
ました。お正月など
でよく耳にする「春の
海」では、味わい深い
箏と尺八の音色にお
客様も聞き入ってお
られました。(Y・M)

【参加人数70人】

詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の
自作の詩の朗読会です

テーマ「子供の眼差し」

2013.3.28

第112回、3月の
テーマは、開催中の「奈
良美智」展に関連した
テーマでした。飛び入
り参加の方1名を含む
計10名で、14作品が発
表されました。

大人になって考える



子どもの眼差しには、幼い頃への懐かしさ
と今の子ども達へのメッセージを含むもの
が多くありました。奈良美智さんのファン
だという飛び入り参加の方を始め、読まれ
る詩の背景には、奈良さんの作品のように、
大きな瞳で真っ直ぐに見つめる純粋な眼差
しを感じられました。子どもの頃当たり前
だったことが、成長していつの間にか不慣
れになってしまった感覚がたくさんある事
に気づかされた会でした。(N・Hi)

3.白追悼イベント 講演会「ねがいごと、100こ」 プロジェクトについて」

2013.3.2

講演者は、「ねがいごと、100こ」プロジェ
クト」主宰で、大阪市鶴見区ミニコミ紙「ロー
カル通信」代表の吉村大作さんでした。

吉村さんは東日本大震災発生直後に、地
元の友人と話したある会話をきっかけに、
「自分も何か出来るはずだ」と発起し、被災
者の方々の願い事を1000個叶えるという
プロジェクトを約1年間かけて達成したそ
の現場についてお話をいただきました。

津波で亡くなった母親とともにみた夢を
叶えるための大学受験用参考書を届けた
り、体育館で避難所生活を送る少女に以前
持っていたのと同じ目ざまし時計を送った
り、死別や引越してばらばらになってしまっ
たバスケットボール部に合同試合のセッ
ティングを行ったり、ばらばらに離れ住む
ことになってしまった学生たちに、予定さ
れていてキャンセルになっていたデイズニ
ーへの卒業旅行をプレゼントしたり、と

いくつかの例を
ご紹介いただき
ました。

すべての活動
は理解者からの
募金や協力で成
り立ち、届けに
行く交通費は吉
村さんの自腹という、全くの手作りのプロ
ジェクトということで、全国のマスコミか
らも大きく注目を集めたプロジェクトでし
た。当時は振り返って、吉村さんは、「仕事
をしながらのプロジェクトだったので、今
ではもう出来ないが、あの時にやっておい
てよかったと思う」と謙虚に語っていまし
た。



ねがいごと、100こ。プロジェクトは、
ブログに全活動が記録されています。ご興
味のある方、ぜひチェックしてみてください
いね。 <http://ameblo.jp/negai-come-true/>
(H・T)

テーマ「かおり(におい)」

2013.4.25

第113回のテーマは4月27日から開催
された「熊本の華人展2013」に沿っての
テーマ設定でした。参加者は飛び入り3名
を含めた15名による発表でした。

かおりにもおもしろいものがあるものでは
なく、しかしながら、時や場所を超えて、記
憶を鮮烈に呼び覚ますもの、ということをも
主題にした詩作がいくつか発表されました。

「くさい」をテーマとして、「くげくさい」

「こどもくさ
い」「いんちき
くさい」など、
リズムカルな
羅列を発表し
た作品もあり
ました。また、
震災を主題と
した、「かおり」の似合わないことば「瓦礫」、
など、はっとさせるような作品もありまし
た。(H・T)



【参加人数15人】

CAMKEESの活動

美術館ボランティア
CAMKEES(キャンキース)による活動紹介

CAMK春のピアノ
コンサートvol.13

2013.3.3

当館のピアノボランティア有志によるピアノコンサートを開催しました。13回目となる今回は、11名のボランティアさんに出演いただきました。シヨパン「アンダンテスピナー」やリスト「コンソレーションNo.3」、木村弓「いつも何度でも」などの曲目が演奏され、最後はピアノボランティアさんの伴奏で「花は咲く」を会場のみなさんと合唱。会場からたくさん拍手が送られました。コンサート終了後、お客様から次回のピアノコンサートについての質問もあり、盛況なコンサートとなりました。(Y・M)



【参加人数120人】

CAMKEES 5年・10年表彰を行いました

2013.3.23

当館では毎年春に、美術館ボランティアCAMKEES(キャンキース)に5年継続で登録された方々へ、ささやかではありますが、感謝の気持ちをお伝えし、CAMKEESみなさんで祝いする表彰式を行っています。2012年度は、この5年継続された方々9名に加えて、開館10周年を記念して、10年継続された17名の方々への表彰も

行いました。桜井館長より感謝状と記念品を贈呈し、継続のCAMKEESの皆さん、お一人ずつから感想をいただき、和やかな会となりました。



また昨夏に開館10周年にあわせて、CAMKEESの皆さんと一緒に開催した2日間わたる美術館イベント「CAMKEES祭り」のドキュメントと、記録班のメンバーと一緒に作成した、CAMKEES 10年の歩み(準備室時代から数えるともっと長いです!)の記録集を当日配布しました。CAMKEESとCAMKスタッフの想いが籠った1冊です。開館当初の様子を語る人、その話に興味深く耳を傾け、質問する人。この10年を振り返る楽しい会話が続きました。

これからもCAMKEESの皆さんのサポートをいただきながら、より充実した美術館活動を展開していくよう励んでいきたいと思えます。(A・A)

CAMK「読みがたり」第43回

テーマ「あったかいおはなし」

2013.3.16

ほかほか陽気にぴったりの春を感じのお話が続きました。絵本「なのはなみつけた」では、なのはなの色々な種類を紹介しました。手袋人形「つんつんつくし」は、つくしが一本一本顔を出す様子がとてもかわいいものでした。また、手あそび「ワニのかぞく」では、手でワニの口を作って遊びました。お父さんワニで



は手を大きく広げて、赤ちゃんワニは、小さくなって、お友達みんなで楽しく表現できました。お父さんと来ていたお友達も多く、親子で一緒に手を広げて楽しむ姿も見られました。たんぼほの綿毛をイメージした折り紙をみんなで飛ばすなど、春の訪れをたっぷり感じる会となりました。(N・H)

【参加人数28人】

CAMK「読みがたり」第44回
テーマ「花いっぱい」

2013.4.13

4月のテーマは「花いっぱい」。春のお花、たんぼほやチューリップ、つくしんぼ、かわいい動物たちがたくさん登場しました。絵本「たんぼほ」では、水彩画で描かれたふわふわ綿帽子がとてもきれいで、綿帽子が飛んでいく様子に小さなお友達はみなくぎづけでした。また、絵本「しろくまのパンツ」は、いろいろな動物のパンツの絵柄に思わず笑ってしまうお



父さんお母さんもいて、親子で一緒に楽しんでいました。春の陽気にぴったりの心地よい会となりました。(N・Hi)

【参加人数20人】

CAMK「読みがたり」第45回
テーマ「わかばとあそび」

2013.5.18

大型絵本「そらまめくんのベッド」や紙しばい「あさですよびよび」などが紹介されました。手遊び「もももももも」では、♪ももももも×4 りんご×4 なし×4 バイナッブル・バイナッブルと歌に合わせて太ももや肩を叩いたり、頭の上で手を広げたり。1つずつ声に出す果物が減っていく、最後は振付だけになる面白い手遊びでした！たくさん笑顔が見られる会となりました。(Y・M)



【参加人数27人】

月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より 無料

上映リスト(2/25 ~ 5/18)

- 2月25日「不安」1954年 イタリア、西ドイツ映画 75分
- 3月4日「フレンチ・カンカン」1954年 フランス映画 104分
- 3月11日「悲恋」1943年 フランス映画 112分
- 3月18日「陽気な幽霊」1945年 イギリス映画 92分
- 3月25日「メナース」1977年 フランス映画 112分
- 4月1日「40」2009年 トルコ、アメリカ映画 87分
- 4月8日「美女ありき」1941年 イギリス映画 120分
- 4月15日「マンハッタンの哀愁」1965年 フランス映画 106分
- 4月22日「マルティナの住む街」2011年 スペイン映画 97分
- 4月29日「カサブランカ」1942年 アメリカ映画 102分
- 5月6日「アンナ・クリステイ」1930年 アメリカ映画 89分
- 5月13日「暗黒街の弾痕」1937年 アメリカ映画 86分

GI
GII

奈良美智展入場者1万人 & 2万人を迎えました

2013.3.4&4.12



奈良美智展の記念すべき1万人目の入場者は、ベビーカーを押したママ友ペアでした！奈良展のチラシに載っている作品を特に楽しみに来館されていました。



続いての2万人目の入場者は、現代アート好きで、たくさん美術館を巡らされている福岡の30代男性の方でした！奈良美智さんの10年来のファンということで大変喜んでくださいました。「九州で唯一の現代美術館で、大好きな奈良さんの展覧会の2万人目になれたことは、嬉しいです。」

また、展覧会については「震災後に作られた作品からは女の子のなんともいえない表情の変化が感じられました」とのコメン

【参加人数20人】

「すごい頭部」を紙粘土で作る

2013.3.20

奈良美智展の関連イベントとしてワークショップ「すごい頭部」を紙粘土で作るを行いました。



内容は、展覧会出品のブロンズ作品を鑑賞して「奈良さんを超えるすごい頭部」を作るというものです。びっくりして髪の毛が逆立った顔や、大きな瞳の猫など、ユニークで表情の豊かな作品が出来上がりました。今回、崇城大学芸術学部の皆さんにお手伝いいただき、参加



した子どもたちもとても楽しく制作していました。最後は、みんなで1つの大きな頭部を作り出来上がった作品は、奈良展会期中、館内で展示しました。(Y・M)

【参加人数15人】

山本耕一郎《うわさ》プロジェクト《始まりました》

2013.4.27&5.4



上通と当館の共同アートプロジェクトとして、2013年は、アーティスト山本耕一郎さんのうわさプロジェクトを開催することになりました。4月27日の城下まつりの日に、その第一弾「上通出逢い景」をびぶれす広場で開催しました。うわさバッジがついた屋台や吹き出し型のテーブル、のぼりが登場し、会場はメインカラーのオレンジ色。その一つ一つが山本さんをはじめ、美術館ボランティアスタッフや、上通商店街の方々の手作りによるものでした。天気にも恵まれ、子どもから大人まで、たくさんの方が参加し、バッジに書かれている色々なうわさに、くすつと笑ったり、首をかし

げてみたり、大きくうなずいたり、皆さん興味津々。その笑顔とうわさバッジと一緒に撮り、柱や壁に貼り出していきまし



た。1000枚以上あつたうわさバッジは、夕方までにはすべてもらわれていきました。

5月4日には、第二弾「美術館のうわさ」が行われ、美術館の中がオレンジ色の吹き出しでいっぱいになりました。うわさの本やうわさの作品、うわさのスタッフまで、熊本市現代美術館の様々なうわさが壁や本棚に現われました。スタッフ編のうわさでは、美術館で働く私たちの一味違った一面をうわさとしてご紹介しました。更に、ホームギャラリーには《うわさ神社》が登場！うわさ神社の中に入ると、うわさをおみくじを引くことができ、大吉から凶まで、「……らしいよ」と、全てがうわさの運勢で、ユーモアあふれるものでした。参加された方は、大吉でも凶でも、ご家族や友人と和気あいあいと楽しみながら内容を見比べていました。(N・Hi)



【参加人数1050人】

圃場(ほじょう)：はたけ、菜園
 (『大辞泉』(1998))
 という意味だよ。



花き生産者圃場見学ツアー

2013.3.9

桜もちらほらと顔をのぞかせた暖かな春の良日に、「花き生産者圃場見学ツアー」を実施しました。

このツアーは、「熊本の華人展 vol.9」の出発者であるお花の先生方と一緒に熊本市内のお花の生産場を訪ねるといいます。

行き先は、今では300以上の種類があるトルコギキョウ、お花の王様であるバラ、いけばなの世界でも親しまれているアリアム、母の日ではお



馴染みのカーネーションの圃場の4ヶ所です。生産者の皆さんに実際に作業しているところや、熊本では出回っていない品種を見せていただいたり、リアルな熊本の花状況を教えていただいたり、また、いけばなをされる先生方だからこそ出てくる質疑応答が行われました。

帰りのバスの中では、「花屋さんのそのまた奥に、花を育て上げてくれる人がいるということ」を深く感じました。という言葉も聞かれ、先生方の胸に響くツアーとなったようでした。

展示会では今回



訪れた圃場からご提供いただくお花を生ける、くまもとブランドコーナーも展開しました。熊本で愛情いっぱい育てられた花々が、華人たちの手によってクリエイティブに生けられるコーナーは見応えのあるものとなりました。(C・T)

【参加人数11人】

熊本の華人展 vol.9 Power of Flowers

2013.4.27-29 & 5.3-5

熊本市現代美術館の花の祭典、「熊本の華人展 vol.9」が開催されました。今年には Power of Flowers と題し、花の持つ様々な Power を感じてもらえるよう構成しました。昨年に引き続き、熊本産の花きを紹介するコーナーでは、華人展初お目見えの「昇龍」(アリアムの仲間)の大作がひととき目を惹いていました。恒例のCAMKコラボ



レーションコーナーでは、月曜ロードショーに登場する銀幕スターをイメージして生けていただきました。「華道はやったこともないし、華道について何も知らなかったのですが、こうやって花を見てみると、植物ってすごいなあ、神秘的で美しいなあと思いました。」「月曜ロードショーのコラボは、発想がとっても新鮮で生け花の世界の広さを感じられておもしろかったです。」(アンケートより)(E・Z)

GⅢ

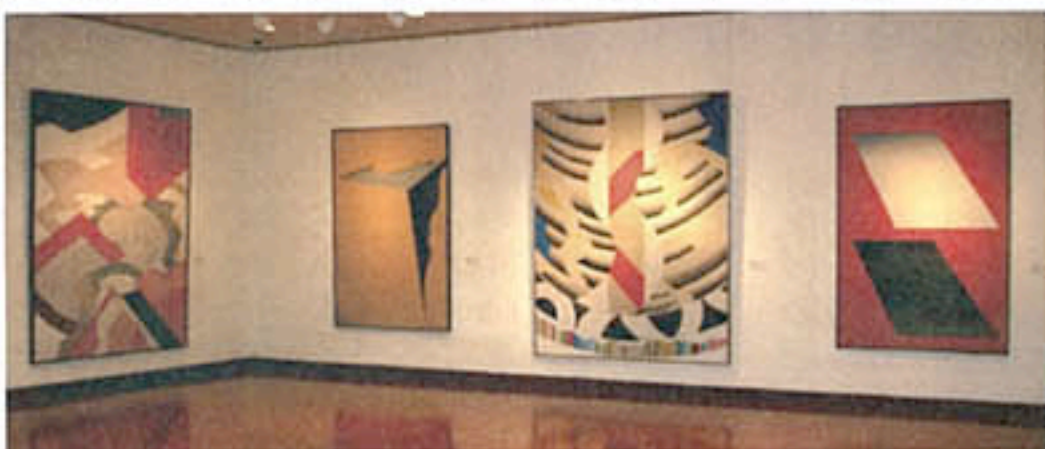
ギャラリーⅢ(GⅢ)は、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

Vol.90 熊本の作家7 三浦洋二展

2013.3.6-5.6

2012年に95歳で没した、熊本ゆかりの洋画家・三浦洋二の作品を、収蔵品から11点ご紹介しました。本展では、坂本善三らに指導を仰ぐ中で表現を確立した、火山などをモチーフとした初期作品、そして立体を平面上に還元するシリーズや、70年代半ばから80年代に多く描かれた「青のシリーズ」、またその後、青から離れて新たな色彩表現を追求していった時代の作品まで年代順に展示しました。これまで、色彩や形態が十分に吟味・整理された、晩年の

大型作品の印象が強くなりましたが、改めて初期作品を見返してみると、厚みのあるマチエールや、阿蘇など自然に取材しそこから抽象に取り組んでいった過程を振り返ることができました。会場にも多くの方が来場され、戦後の熊本の美術文化の発展に大きく寄与した作者の人柄が偲ばれる展示となりました。(A・S)



Vol.91 神野大光 一書と篆刻の世界一展

2013.5.11-7.6

愛媛県出身熊本在住の書家・神野大光さん(熊本大学教授)の個展を開催しました。篆刻、書、刻書など近作から最新作まで45点を出品しました。表現においては、行書体、篆書体、歴史数字書、篆刻、現代文書などと幅広くみる事が出来ます。

神野さんの書で個人的なのは、ご本人が「歴史数字書」と命名したシリーズの作品で、「194586815」「194589112」「1945623」など、そこに書かれるのは忘れてはならない日付の数字です。印材や様々な素材の筆なども展示されており、書に親しみのない方も、その世界の幅広さに触れる場となつていきます。本展は、作品から、あふれんばかりの豊かな感情や奥深い人間性の表出とともに、筆と印刀を握りしめて歩いたその人生の物語を感じ取っていただく機会となりました。(H・T)





くまもと城下まつり2013

2013.4.27

くまもと城下まつり2013の開催に
連して、開催初日の「熊本の華人展①」



を入場無料にし
ました。21流派
が生ける作品の
迫力と共に、多
くの方に足を
運んでいただき
ました。また同
日、びぶれす広
場では、上通商
店街と共催で行
う「うわさプロ
ジェクト」がス
タートし、来館
者の中には上通
の様々なうわさ
バッジを身に付

熊本市美術文化振興財団は
公益財団法人に移行しました

この度、当財団は、公益法人改革関連法の施行に基づき、平成25年4月1日付で公益財団法人へ移行したことに伴い、公益財団法人熊本市美術文化振興財団に名称変更しました。

これからも、教育や福祉の充実、産業の活性化、地域の再生など様々な分野において、文化芸術の持つ創造性を活用し、心豊かな市民生活を実現するとともに都市の活力と魅力を高める、熊本市のまちづくりに寄与することを目的に一層努めてまいります。どうぞ、よろしくお願い致します。(I・S)

けた方が見られ、会場内は普段と違った賑わいを感じられる一日となりました。(N・Hi)

【参加人数1572人】

井手宣通記念室展示替

2013.3.6-5.27

今回の展示は、「熊本出身の洋画家たち 1960年代の活動」というテーマをもとに、収蔵作品より、井手宣通、牛島憲之、宇野千里、田代順七による1960年代に制作された作品11点を紹介しました。1960年代は、宇野と田代はパリやイタリアなどヨーロッパ各地取材した時期であり、都会的な作風が特徴であることなどを示した作品解説を配布しました。(H・T)

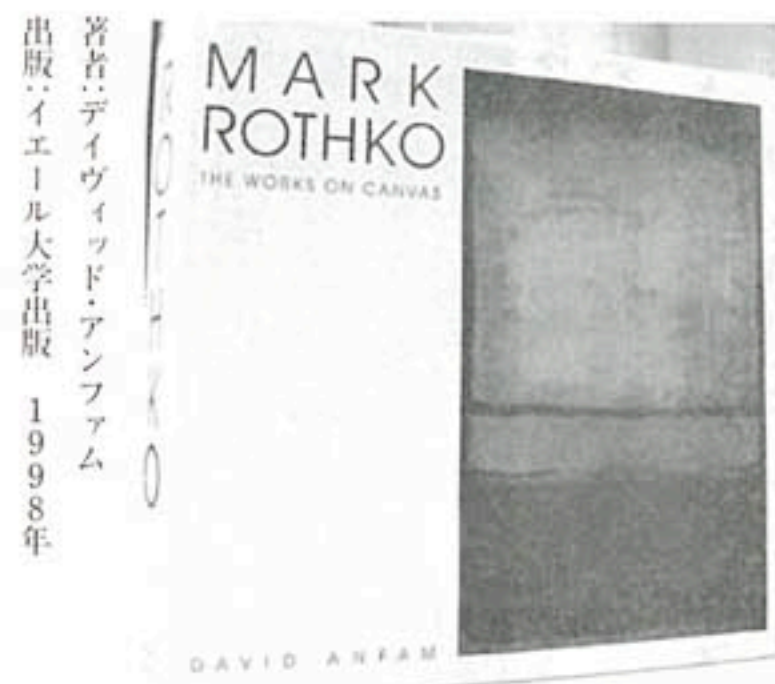


ホームギャラリーからのお便り

ホームギャラリーからおすすめの一冊をご紹介します。

VOL.16

マーク・ロスコ カタログ・レゾネ
Mark Rothko: The Works on Canvas



ロスコは、ロスコ様式とよばれるいくつかの矩形が雲のようにふわふわと大画面に浮かぶスタイルで知られ、その鮮やかな色彩と繊細な筆遣いから1950年代に大人気となった画家です。その作品は、世界のアート・オークションで取引され、価格は年を追うごとに上がっています。実はこの世間の反応に対して、ロスコ自身は、自分の絵が単なる装飾として扱われているのではないかと、大変気にしていました。なぜならロスコは、時代や地域を超越して、「人間が生きる」とはどういうことなのか、死、暴力、恐怖など不条理に満ちたこの世界のなかで何を思い、見つめて生きていくのか、そういったことを考え、自己と対峙する機会を生み出す絵画を描くことを目指していたからです。その思いが深まり、ロスコの作品からは次第に明るい色が消え、奥深い色彩による作品へと変化していきます。晩年の作品は瞑想を促す宗教的な絵画と評され、日本では、高村薫氏の小説の表紙や、DIC川村記念美術館(佐倉市)にある「ロスコ・ルーム」の存在から広く知られています。いずれの時代の作品も共通しているのは、色と形のみによる大画面によって人間の感情に訴えかけようとしたことで、絵画の歴史に大きな一石を投じました。

ロスコの生涯をかけた作品の変遷を辿り、各時代の作品の表情や、作家の心境の変化を色々と想像してみませんか。(A・A)

今回ご紹介するのは、アメリカの抽象表現主義の画家マーク・ロスコ(1903-70)のカタログ・レゾネです。

「カタログ・レゾネ」とは、あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、出版時点で確認できる作家の全作品を記録した目録を指す言葉です。いつ制作され、どこに展示され、だれが所蔵者なのか、といった情報が図版と共に掲載されています。目録と聞くと、ちょっと硬いイメージですが、この本は1点1点の作品を大きなサイズ、カラーで載せており、画集としても十分に楽しめる1冊です。そして、なにせロスコの全カンヴァス作品が収められているので、とてもヴォリュームがあり、分厚いです。ですから、ホームギャラリーのソファでゆったり身を沈めて、じっくりと眺めていただくには、ぴったり!

ART DE GYAN

アート・どぎゃん。

※熊本でアートはどのような？という意味です

第53回 白鷗書道会展

2013.4.9-14

熊本県立美術館分館

熊本市中央区千葉城町2・18

TEL 096・351・8411



県下のかな書道会で最大の白鷗書道会である。今回は中村龍石生誕100年と、中村天香米寿の両記念展で、

約110点と、会員約200人が約300点の展示となっていた。

龍石さんは、日展の特選を重ねて受賞し審査員もされ、県下でトップの書家で、後進の指導もされ書壇で活躍されてきた。それだけに展示されたかな作品はさすがである。古典にのっとり線の変化もあり、格調も高く、今見ても感動をうける。

中村天香さんは夫の龍石さんなきあとをつぎ、会長として白鷗書道会を育ててこられた。作品は百人一首など大小あり、多彩で、よく努力された作に見られた。幹部の中村天馨さん、那須球石さん、浦田瑛雪さん、中村紫藤さん、藤本世紀子さんの作品もかなの連綿の美しさを見せていた。(S・K)

薔薇の咲くころに MOON

2013.5.9-13

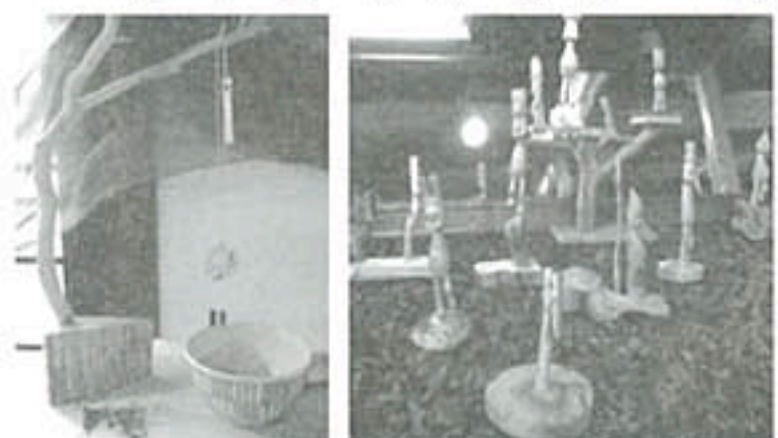
ギャラリー cache cache

合志市須屋558・2

TEL 096・343・2344

バラの香りに包まれたオープンガーデン内にあるギャラリーで開催された安倍伸子さん(銀)、安倍大希さん(木)、有富直子さん(陶)の異なる素材をあつかう3名によるグループ展。「月」をテーマにコラボレーションされた会場は、繊細なつくりの銀の輝き、陶の温かみのある色合いと形の間を木彫の人影が回遊する外国の絵本のような雰囲気であった。

作家が好きなことに一直線に突き進んでいる印象を受けたため、それぞれの個性もじっくり観てみた。(C・I)



広瀬摩紀個展 ひとあわ

2013.5.15-21

Orange

熊本市中央区新市街6・22

096・355・1276



鳥田美術館で行われた個展「ひとこま」に引き続き開催された個展。東京都出身でイラストレーターとして活躍する広瀬さん。人物が描かれた日常の風景をペンにアクリル絵の具や色鉛筆で彩色された新作の作品や、小さい方眼紙に描かれた人物像、電車の中でよく見られる様子などを描いた「Tokyo train」シリーズなど多数出展されていた。日常を切り取った情景が絵本の一ページのような童話的な雰囲気の作品が目をついた。頭部が強調された人物は、一度みると広瀬さんの作品とわかるほど強い印象を受けた。(N・H)

Visitor's letter

来館者のみなさんからのメッセージ
アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

- 「奈良美智 君や僕にちょっと似ている」展感想
・彫刻作品や様々な素材(紙、ダンボール、麻布 etc) に描かれた作品を鑑賞できて楽しかった。(熊本市・10代・女性)
- ・西日本初の奈良さんの新作個展に大満足です!来てよかった。(宮崎県・40代・男性)

「熊本の華人展 vol.9」感想

- ・いけばなをちゃんと見るのは初めてでしたが、立体的な作品が多く、とても興味を持ちました。お花の良い匂いがして、気持ち良く過ごすことができました。(熊本県・20代・女性)
- ・それぞれの流派の特徴が出ていて、とても意義ある内容でした。(熊本市・60代・女性)

編集後記

奈良美智展も無事大盛況に終わり、過去最高の入場者数を迎えた熊本の華人展、そしてコレクション展と、春から初夏に向けてCAMKは様々な展覧会やアトイベントを開催しました。

今回のコレクション展の特徴のひとつは、実際に座ったり、作品の中に入ったり、自分が参加出来る体験型の作品を多く紹介している点です。(相撲生人形)の記念撮影もできますので、この機会にぜひマイフォトコレクションに加えてください!

編集長 富澤治子

今年の華人展はゴールデンウィーク期間に開催しました。その時期に出版者の先生方の華やかで美しい生け花を目の当たりにし、花き生産者の方々とも触れ合う機会があったこともあり、今年の母の日は花束を贈ろうと決めました。普段花束を贈る習慣がなかったのですが、特別な日の花束は本当に素敵だなと今更ながら気が付きました。展覧会が、自分にとって小さいことでも行動を起こすきっかけになっているなどつくづく感じました。

担当 濱川倫子

「執筆後記」*原稿の文末にイニシャル表記

兼城昌山(書道家)(S・K)

蔵座江美(熊本市現代美術館主任学芸員)(E・Z)

富澤治子(熊本市現代美術館主任学芸員)(H・T)

坂本顕子(熊本市現代美術館主任学芸員)(A・S)

芦田彩葵(熊本市現代美術館主任学芸員)(A・A)

高橋知江(熊本市現代美術館学芸員)(C・T)

濱川倫子(熊本市現代美術館学芸員)(N・H)

丸吉ゆかり(熊本市現代美術館学芸員)(Y・M)

平原奈津美(熊本市現代美術館学芸員)(N・H)

杉谷和泉(熊本市現代美術館総務主査)(I・S)

ART KISS LETTER アートキッスレター

vol.62 初夏号(2013年6月)【無料】

発行人: 桜井武

編集: 富澤治子

デザイン: 石井克昌(MOTOSHIKI)

印刷: シモタ印刷

発行: 熊本市現代美術館

860・0845

熊本市中央区上通町2・3

電話 096・278・7500

ファクス 096・359・7892

<http://www.camk.or.jp/>

【次号は盛夏号(8月発行予定)】

当館活動に関わるアーティストのコーナー「レター・フロム・アーティスト」。あわせてアーティストの最新情報をお届けします。

第12回

Letters from Artists

アーティスト
山本耕一郎さん



4月27日に、「上通のうわさプロジェクト」が
始まり、無料の屋台「うわさバッチ」が出現し
ましたね。大成功のご感想はいかがですか？



山本…びっくりしたの
は、全国各地で「うわさ
バッチ」のアートプロ
ジェクトを行う時、1
日平均400枚くらい
をお持ち帰りいただき
んですけども、熊本は、
1000枚があつとい
う間になくなりました。
普通の2倍の速さでし
た。人だかりがあると、「何だろう？」と集
まってしまうのでしょうか、熊本の人たち
はノリが良いんでしょうかね？「お城まつ
り」というタイミングとお祭り騒ぎな感じと
で、市民の気持ちにぴったり合ったのだと
思います。手作り感あふれるバッチも、手に
取りやすいのかもしれない、タダ(無料)つ
ていいですね(笑)。

みなさん、どの「うわさバッチ」を身に
着けようか、楽しそうに悩んでいましたね。

山本…みなさん、じっくり選んでいまし
たよね。パッと自分にぴったりなのを見
つけた人はそれを選ばんでしょけども、



幸山 政史市長と記念撮影

バッチの言葉は僕が考えているので、自
分に合うものがない人は、ギャグに走る
か、選ぶのに悩んでしましますよね。見
ていると、「この子がこれを選ぶの?!」
というのや、「おじさんがこれを選ぶのか
…」など、意外な人柄が浮かび上がって
くるのが興味深いです。

幸山市長が、屋台「うわさバッチ」に
も足を運んでくれました。すぐ帰られる
のかなと思いきや、30分くらい市民の方
と交流されていましたよ。僕が「バッチ
着けてくださいよ」とお願いしたのです
が、前日はつけてくれたのに、当日はつ
けてくれませんでした、残念(笑)。

「うわさバッチ」を選ばれた方の、着用の
記念撮影をしますよね。なぜでしょうか？

山本…基本的には、参加して下さった方は、
もう2度と出会う機会がない方がほとんど
だと思えます。撮影の時に、「こういうバッ
チを選んでくれたのか」とその人と自分と
の距離が縮まった感じがしますし、その気持
ちを写真に留めておきたいと考えています。
距離が縮まった瞬間って、まさに人と人と
が出会う瞬間じゃないですか。そういうこ
とを考えながら撮影しています。

「うわさバッチ」の内容は、山本さんがす
べて手掛けていますよね。1000種類
くらいあるのでしょうか？

山本…バッチの内容は、面白いフレーズ
が思いついたら書き留めています。自分
の友人の姿を見て「こういうところがあ
るなとか、日常生活でこんなことがあつ
たな」ということが参考になっています。
「彼氏の携帯を見たことがある」などと
いうネタもテレビを見て加えました。
ローカルネタも各地で考えます。辛子
蓮根やくまモン、蜂蜜饅頭、ロアッソ熊
本が熊本バージョンとして加わりました。
しばらく滞在すると、いい情報が自然と耳
に入ってきますね。アンパンマンネタは、
全国の子供たちに大人気ですよ(笑)。

なるべく皆が読んで心があつたかくなる
ような内容がいいと思っています。撮影し
た写真も大体が笑顔で、楽しんでいただ
いた感じが残っていてうれしく思います。

うわさのふきだしの背景色はどのように
選んでいますか？

山本…目立つ色を選んでいきます。仙台は
杜の都で黄緑色、八戸は寒いので暖色系
で黄色、浦和は赤色でした。熊本は取材
に来た時に柑橘系だと思いましたので
オレンジ色です。

文字をツールとしたコミュニケーション
型のアート作品を展開されているのです
が、そのきっかけを教えてください。

山本…例えば、二宮金次郎などの著名な
人物の銅像があるじゃないですか。必ず
台座の横には立派な文字で「この人はこ
ういう人物で…」という説明書きがある。
僕もそうなんです、長くて読もうとい
う気にならないんです。たった一言で、その
人物を説明できるツールがあるといいな
と思いました。瞬時に情報が入りやすいほう
が、その分、人との距離も縮まりやすい。
説明をわかりやすくするとアート作品とし

ても近づきやすくなると思うんです。
それと、オノ・ヨーコの影響があります。
大好きなんです、著書もたくさん持って
います。「WARIS OVER」、本当にすご
いインパクトですよ！また、赤瀬川
原平の影響もあります。いつもアートの
敷居を低くしたいと考えています。

熊本は、今回は14日間の滞在ですが、
長いときは1か月間その土地に滞在しま
す。どの土地でも、美味しい食べ物と、
美味しいお酒と、楽しい人たちに会え
るのは本当に楽しいです。ずっと Face
to face で繋がりが続ける縁を結んでいる人も
たくさんいます。

今回の滞在中、熊
本がすごいと思う点
は、上通アートプロ
ジェクトのスタッフ
さんやインターンさ
ん、美術館のボラン
ティアさん、美術館
のスタッフさん、僕
の古くからの友人の
生徒さんなど、いろ
んな背景の人たちが
交じって同じ場に
集って、プロジェクトの準備に尽力して
下さっていることです。ボランティアさん
の活躍が特にすごいと思います。職をつ
くったり、建屋をつくったり、バッチを作
ったり、手を真つ黒にして手伝ってくれ
ています。大人になると自分の世界が狭
くなっていくじゃないですが、この方たちの
世界は広いと感動します。そういう人た
ちが皆でまとまって繋がっていく、そうい
うこともプロジェクト型の作品のプロセス
として本当に重要だと思っています。

(聞き手:富澤、インタビュー:2013年5月2日)

